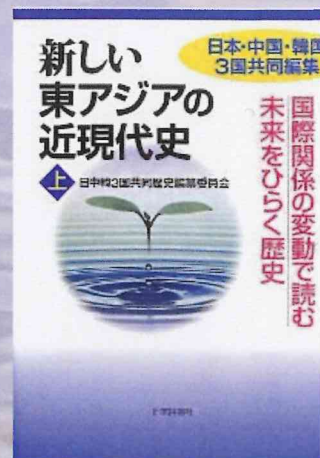


合同シンポジウム

国境を越える 歴史認識を求めて



日中韓3国共同歴史編纂委員会編
『新しい東アジアの近現代史』上下
(日本評論社、2012年) から学ぶこと

日中韓の間で歴史認識をめぐる相克が続くなか、昨年9月に日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新しい東アジアの近現代史』上下巻が上梓されました。同書は、『未来をひらく歴史』（高文研、2005年）刊行後、同委員会により取り組まれてきた日中韓の相互理解と歴史認識共有についての、6年間にも及ぶ努力の成果です。本シンポジウムでは、同書を素材としながら、東アジア地域において国境を越えた歴史認識を共有するための課題と方法について考えます。

- 12:30 開場
- 13:00 開会の辞・趣旨説明
- 13:05 共催団体よりの挨拶
- 13:15 大日方純夫「日中韓3国の共同作業から見えてくるもの
—『未来をひらく歴史』から『新しい東アジアの近現代史』へ—」
- 13:50 近藤孝弘「多国間歴史教材の分析視点
—ヨーロッパと東アジアの比較から—」
- 14:25 森口等「『未来をひらく歴史』でどんな未来がひらけたか？
—歴史教育の現状を踏まえた模索より—」
- 15:00 鄭栄桓「東アジア冷戦と近現代史認識
—歴史像「相克」の両義性から考える—」
- 15:50 討論
- 17:30 閉会の辞

日時 2013年3月3日（日） 13:00-17:45
会場 早稲田大学早稲田キャンパス7号館114教室
<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

入場無料（事前申込み不要）

お問い合わせ先：歴史学研究会 03-3261-4985